

# お札と切手の 博物館 ニュース

Banknote and Postage Stamp  
Museum News

## Contents

展覧会追録 特別展「鳳凰はばたく朝陽閣～明治・大正期の  
印刷局工場案内～」より「明治草創期の警備体制と  
大正期の『働き方改革』」

シリーズ 世界のお札と切手をたずねて⑦

2024/7/1  
Vol. 54





## 展覧会 追録



# 令和5年度第2回特別展「鳳凰はばたく朝陽閣～明治・大正期の印刷局工場案内～」より 明治草創期の警備制度と大正期の「働き方改革」

令和5年12月19日(火) から令和6年2月25日(日) まで、特別展「鳳凰はばたく朝陽閣～明治・大正期の印刷局工場案内～」を開催しました。

「朝陽閣」とは、明治9(1876)年から大正12(1923)年まで東京・大手町に操業した印刷工場の呼称です。当代きっての西洋建築物として話題となる一方、最新技術を駆使し、お札や切手、官報等を次々に生み出した工場は、印刷界のパイオニア的存在でした。

会場では、朝陽閣が描かれた数々の錦絵(図1)や、工場内での作業風景写真を展示し、立体の等身大鳳凰像※パネル(約2.4メートル)や、250分の1サイズで精巧に再現したジオラマ(図2)を設置して、当時の朝陽閣の雰囲気を「再現」しました。

ここでは、展示内容に関連し、明治・大正期のセキュリティ体制にまつわるエピソードをご紹介します。

※朝陽閣の建物正面破風に据え付けられていた鳳凰の石像。



図1 朝陽閣を描く錦絵  
三代歌川広重画「東京名勝之内 常盤橋紙幣局  
新建出来之図」明治10(1877)年



図2 会場内に設置した  
(下) 朝陽閣ジオラマ(250分の1サイズ)  
(右) 等身大鳳凰像の立体パネル(約2.4メートル)



## 印刷局内警備制度の始まり

印刷局は、お札や切手、諸証券類等の製造元という性格上、その保管については万全を期さなければなりません。しかし、草創期には多くの課題点がありました。

印刷局では、明治5年発行の新紙幣(図3)からお札に携わっています。このお札は、技術の進んだドイツに製造委託したもので、未完成の状態で作られた後、赤い文字や緑色の印章部分などを押印して完成するものでした。ところが、諸々の問題から押印作業が進まず、ドイツから到着したお札は倉庫に山積していました。また、同時期に他の外国製のお札や証券の納品が重なったこともあり、敷地内には多数の貴重製品が保管されていました。この時、敷地内にいた職員の大半はお札の検査や押印作業に従事していたため、万が一に備えた警備体制の不備が問題視されたのです。

そこで、敷地内を24時間体制で警備するために陸軍兵の常駐を要請して認められ、明治5年からは毎日番兵15名(後に約50名に増強)が常駐することとなりました。これが、印刷局内警備制度の始まりです。

さらに、明治7年には警備の強化を目的に印刷局職員の中から守警職を10名置くこととしました。守警とは、「お札を守る」意で、主な業務は金庫内のお札の運搬でしたが、後に取締掛の名で、倉庫番や門番のほか、職員の素行調査や出入りの取り締まりを担い、消防活動にも携わることとなりました。

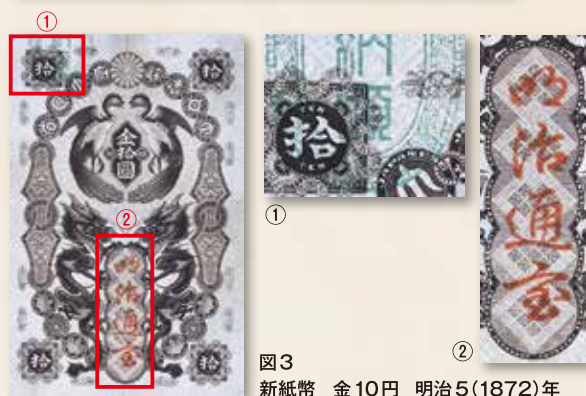


図3  
新紙幣 金10円 明治5(1872)年

なお、職員の出入りの取り締まりとは、製品の紛失を防ぐために、構内へ出入りする際に裸にさせて検査を行うもの（裸体検査）でした（図4）。この図のうち、制帽を被った2名が守警とみられます。



図4 明治32年ごろの裸体検査の様子



図5（参考）  
明治32年ごろの局員の服装（左から2番目が守警）



図6（参考）  
明治10年代の印刷局の守警

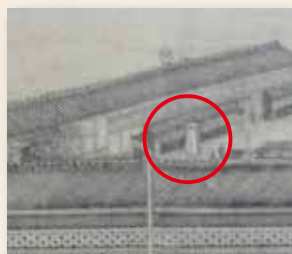
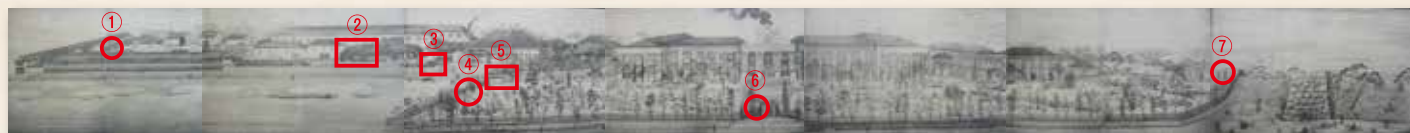
明治11年には陸軍兵の派遣が廃止されたため、以降はすべての警備業務が守警の任務となり、幹部を除く80名が昼夜40名ずつの交代で従事しました。その中心業務であった「立番所」は、朝陽閣の各門や出入口に9か所設けられました。敷地内の建物については、増改築が随時行われていたこともあり、正確な位置が分かる資料はありませんが、明治10年当時の朝陽閣の俯瞰図を描いた絵はがき（図8）には、立番所と守警の様子の一部や、守警らしき制服を着た人物を見ることができます。

こうした警備体制は、現在も印刷局の各所に受け継がれています。



図7（参考） 守警の集合写真

図8 絵はがき「明治十年紙幣局之外観」 大正9（1920）年



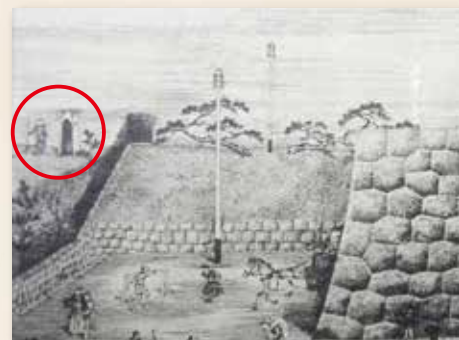
①整理部物品口



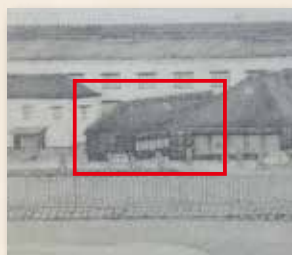
③守警詰所（本局表門）



⑤守警詰所（工場通用門）



⑦構内土手上哨兵所（常盤橋堤上）



②守警本営



④工場通用門



⑥工場表門



## 大正期の「働き方改革」

明治草創期の印刷局では、貴重製品の製造元という特殊性から、製品とその製造技術等の機密事項の管理を徹底して行っていました。これは、現在の印刷局にも引き継がれる重要な指針ですが、その信頼を損なわぬために、草創期には過剰なまでのセキュリティ体制が敷かれ、職員たちは厳しい規則の遵守を義務付けられました。

こうした印刷局内での厳重な取り締まりを緩和し、現在で言う「働き方改革」を実行した中心人物が、第9代印刷局長の池田敬八いけだ けいはちです(図9)。

池田が局長に就任したのは大正6(1917)年のことで、当時は第一次世界大戦の影響による好景気から、お札や諸証券類の製造数が増え、印刷局の業務は繁忙を極めていました。職員の募集も行っていましたが、民間ではデパートや企業が新たに設立されたこともあり、印刷局の裸体検査を始めとする厳しい規則は、特に女性から敬遠されるようになりました。人員の確保に急を要する一方で、戦争やロシア革命の影響による社会運動の機運が高まり、印刷局でも待遇改善を求めるストライキが起きます。

池田は、就任当初から時代錯誤の裸体検査は廃止すべきであると訴えていました。しかし、古参の幹部からは、創業以来50年続く規則を廃止しては取り締まりが乱れるとして猛反対を受け、さらに3年訴え続けてようやく大正9年に裸体検査が完全撤廃されました。

検査を廃止した結果、職員の健康状態が改善するという思わぬメリットもありました。検査を実施していたころに比べて、風邪の流行時期の欠勤者が激減したということです。

人員不足解消のため、紹介手当の支給を始め、採用者の年齢改正を行い、男子は満12歳以上30歳以下、女子は満11歳以上30歳以下としました。さらに、印刷局での勤務前後に学校へ通う苦学生に対し、時間給制度を設けて、出出勤時間が自由に選べる制度を設けたり、各種手当や有給休暇等の支給を行ったりして働きやすい環境づくりに努めました。

こうした労働環境の改善のほか、特殊作業や繁忙業務にあたる職員の疲労やストレスを解消し、その働きぶりをねぎらうために「慰安会」が設けられました。大正4年から毎年1回大規模な催しを開催することとしたもので、踊りや芝居、仮装行列などが行われたほか、観劇や旅行などが実施されています(図10)。



図9 第9代印刷局長 池田敬八いけだ けいはち



図10 第1回慰安会(大正4年)の様子



大正14年に開催された第10回慰安会の写真からは、鎌倉・由比ヶ浜で日常業務を忘れて楽しむ職員の姿や、にこやかな幹部たちの表情が見られます(図11～図14)。



図11 大なわとびをして楽しむ職員



図13  
現地の「慰安会本部」前に立つ幹部職員

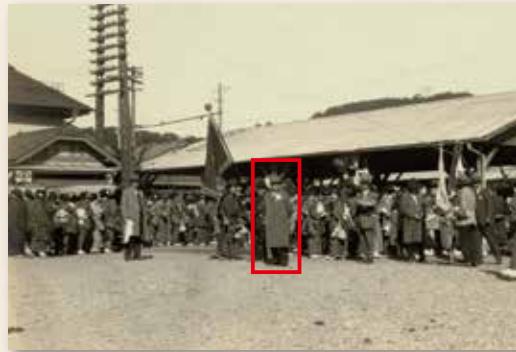


図12 鎌倉駅前に整列する職員 中央の人物が池田局長



図14 由比ヶ浜で余興を見る職員

一方、大正10年には、三重県出身の池田の発案で伊勢神宮への参拝旅行が実施されました。これは、職員の精神の練磨等を目的としたものでしたが、予算の都合上、当時在籍した5400名ほどの職員全員を対象とすることができなかったため、慰安会ではなく、希望者1088名の有志による団体旅行となりました(図15)。

旅行は一大事業と化し、班分けや班長等の任務、団長以下7係(総務、接待、会計、輸送、衛生、宿舎)の設置と責任分担等について定めた規程が設けられました。

旅程は5日間、東京駅から夜行列車に分乗し、10数か所の旅館に分宿、伊勢神宮のほか名古屋にも立ち寄りました。現地でもこれだけの大旅団は珍しかったようで、花火や楽隊が出迎えるなど大歓迎を受けたほか、特別な大々神楽やかんこ踊りを見学し、一同は感銘を受けた様子だったそうです。

こうした印刷局伊勢参宮団の旅は、関東大震災直前の大正12年まで計3回開催されました。



図15 印刷局伊勢参宮団(神宮徴古館前)



図16 (参考)  
第1回印刷局伊勢参宮団徽章

池田の在任期間であった大正から昭和初期は、第一次世界大戦の影響による業務繁忙や関東大震災、金融恐慌といった大事が続き、印刷局にとっては激動の時代でした。この時、池田は職員一同に対し、時勢に即し、現状に満足することなく、業務改善や新規発明に尽力して作業効率を上げるよう説いており、その先陣を切って悪習を廃するなど業務改善を行ったことが分かります。このほか、池田が改革した事業等については、改めてご紹介する機会を設けたと思います。

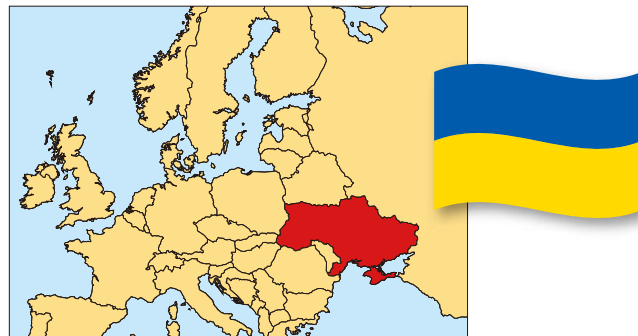
(学芸員 土井 侑理子)



# 世界のお札と切手をたずねて⑦

## ●ウクライナ

## ウクライナと世界との連帯



令和4(2022)年2月、ロシアがウクライナへの軍事行動を開始してから2年以上が経過しました。その間、日本を含む各国がウクライナとの連帯を表明し、様々な支援や措置を実施しています。切手もその一助として、発行する側、使用する側の双方がウクライナへの支援を表し、かつ平和を訴える手段となっています(図1)。

また、ウクライナ本国から発行された記念紙幣や切手からは、この戦争を公式に記憶し、諦めずに戦うという強いメッセージが伝わってきます(図2)。



図1 ウクライナ国旗をモチーフとした各国の支援切手

- ① オーストリア 100+200セント 2022年  
ユニセフと援助団体への寄付金付き切手。
- ② エストニア 1.90ユーロ 2022年
- ③ シエラレオネ 12500レオネ 2022年
- ④ フランス 無額面+0.84ユーロ 2022年  
フランス赤十字社への寄付金付き切手。
- ⑤ グレナダ領カリアク島・プティマルティニーク島 13ドル 2022年  
平和を表すハトの背景には、ロシアのクレムリンとウクライナの最高会議が描かれている。

(表)



(裏)



図2 ウクライナが発行した記念紙幣と切手

(左) 記念紙幣 20フリブニャ(表裏) 2023年

「我々は忘れない!許さない!」と題されたお札。

表面には、3人のウクライナ兵士が国旗を掲げている様子が描かれているが、その背景にはウクライナの地図と、支援国(イギリス、EU、アメリカ、カナダ)の国旗が見える。裏面は、占領下のウクライナ人の肉体的、精神的苦痛を象徴したデザイン。

(上) 無額面 2022年

「ヘルソンはウクライナだ!」と題された切手。ウクライナ南部のヘルソン州はスイカの名産地であることから、スイカを当地に見立てている。その果肉部分にはロシア占領下での人々の様子が描かれ、スイカの種はロシアが発射するミサイルのように見える。この切手は、2022年11月にウクライナ軍がロシアからヘルソンを解放した記念として発行されたが、戦況は依然厳しいものとなっている。

## ●国連

# 「機関」が発行する切手

切手は国や地域が発行するものですが、唯一の例外が「国連」です。その切手は、人権や環境問題、絶滅危惧種、平和など国連が取り組む重要課題を世界にPRする目的で発行されています。

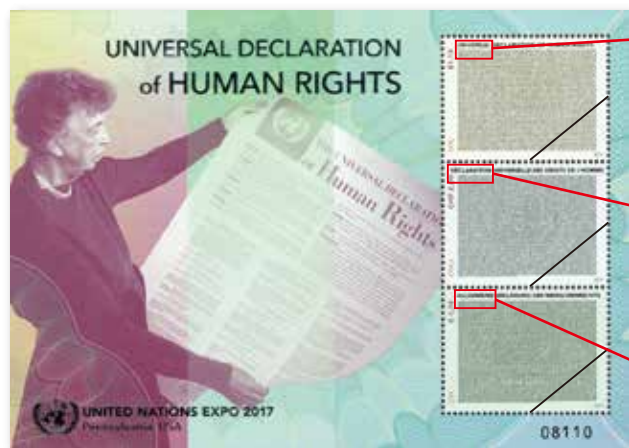
国連切手はコレクターからも人気がありますが、郵便用として使用できるのは、ニューヨーク本部、ジュネーブ事務局、ウィーン事務局から発送される郵便物に限られるほか、各事務局用に米ドル、スイス・フラン、ユーロと異なる通貨で発行される点でも珍しいものとなっています。

なお、国連切手は世界有数の証券印刷会社が製造しており、過去には日本の国立印刷局も数々の国連切手の印刷に携わりました。

(学芸員 土井 侑理子)



図1 最初の国連切手  
1・5セント 1951年



英語

**UNIVERSAL**  
PREAMBLE WHEREAS RECOGNITION OF THE INalienable rights, justice and peace in the world, where mankind, and the advent of a world in which the highest aspiration of the common people is freedom, that human rights should be recognized, that the peoples of the United Nations should have the right to live in peace and in the equal rights of men and women.

フランス語

**DÉCLARATION**  
PRÉAMBULE CONSIDÉRANT QUE LA RECONNAISSANCE des droits inaliénables, de la justice et de la paix dans le monde, où l'humanité a été proclamée comme la liberté, que les droits de l'homme doivent être reconnus, que les peuples des Nations Unies doivent avoir le droit de vivre en paix et dans l'égalité des droits des hommes et des femmes.

ドイツ語

**ALLGEMEINE**  
PRÄAMBEL: DA DIE ANERKENNUNG DER UNVERÄUßERLICHEN RECHTE, GERECHTIGKEIT UND FRIEDEN IN DER WELT DER MENSCHHEIT MIT EMPORUNG ERFÜLLEN UND WACHHALTEN. DAS HOCHSTE STREBEN DER MENSCHEN GEWANNEN WIRD, ALS LETZTES MITTEL, ZUM AUFGEBAU ZWISCHEN DEN NATIONEN ZU FÖRDERN, DAß DIE VÖLKER MENSCHLICHEN WERDEN UND ALS SOLCHE GLEICH.

図2  
世界最多の単語が印刷された切手シート  
「世界人権宣言」  
1.15ドル・2フラン・1.70ユーロ 2017年  
英語、フランス語、ドイツ語の世界人権宣言（合計5400語）がマイクロ文字で印刷された切手。シートの左側には、国連人権委員会の初代委員長として世界人権宣言の起草と採択に尽力したエレノア・ルーズベルト（ルーズベルト元大統領夫人）が描かれている。

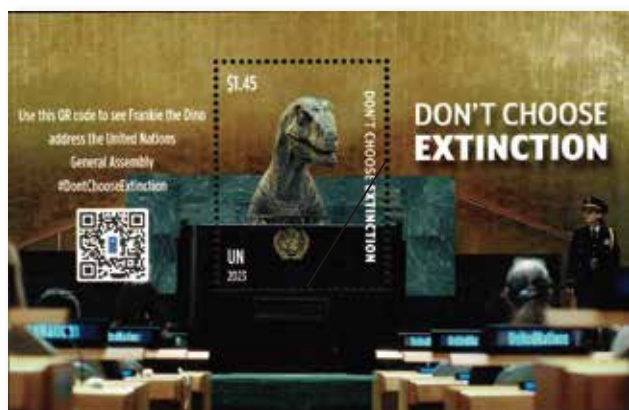
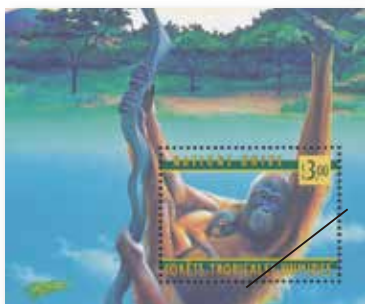


図3 最近の国連切手  
「絶滅を選ばな」 1.45ドル 2023年  
CGの恐竜「フランキー」が国連総会議場で気候変動に対する行動を起こすよう演説する様子が描かれている。その動画を見ることができる二次元コード付き。



図4 日本の国立印刷局が製造した国連切手  
(右)「アジア極東経済委員会」 4セント 1960年  
(下)「熱帯雨林」 2ドル・3フラン・22シリング 1998年





## イベント情報

令和6年度特別展

# お札の誕生祭

— 新しいお札がやってきた! —

I期:7月3日(水) ▶ 9月1日(日)

II期:9月3日(火) ▶ 12月22日(日)



## いよいよ新しいお札が発行されます!

20年振りにデザインを一新して発行されるお札には、世界初の技術やユニバーサルデザインの採用など初めてお目見えする要素が多く含まれています。

本展示では、体験装置をまじえて新しいお札の製造技術やデザインを楽しみながら学ぶことができます。また、各券種の歴代のお札とともに歩んできた歴史を振り返ります。

## 体験イベント 手すきはがきづくり体験

今年の夏も恒例のすかし入りのはがきを作る体験イベントを行います。皆様のご参加をお待ちしております。

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 対 象  | 小学生以上                    |
| 期 間  | 2024年7月23日(火)から9月1日(日)まで |
| 体験時間 | 10:00~11:50、13:10~16:20  |
| 所要時間 | 約10分                     |
| 参加費  | 無料                       |

※予約は受け付けておりません。また、混雑状況により、受付を早めに終了する場合があります。



## ご利用案内

**入館無料** 開館時間: 9:30~17:00  
休 館 日: 月曜日(祝日の場合は翌平日)  
年末年始、臨時休館日

独立行政法人 国立印刷局  
**お札と切手の博物館**  
〒114-0002 東京都北区王子1-6-1  
TEL.03-5390-5194  
<https://www.npb.go.jp/museum/index.html>

お札と切手の博物館

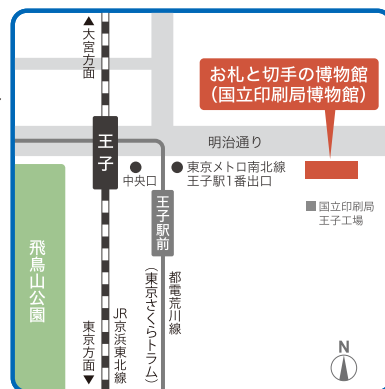
検索

### 交通

JR京浜東北線「王子駅」(中央口)下車 徒歩3分  
東京メトロ南北線「王子駅」(1番出口)下車 徒歩3分  
都電荒川線(東京さくらトラム)「王子駅前」下車 徒歩3分  
※駐車場はありません。

### 常設展

新しい日本銀行券の紹介  
偽造防止技術の歴史・印刷・製紙技術  
重要文化財 スタンホープ印刷機  
お札の移り変わり/世界のお札/  
切手の移り変わり/世界の切手/  
国立印刷局の歴史/  
※特別展開催時は一部展示の変更があります。



発 行: お札と切手の博物館(国立印刷局博物館)

発行日: 令和6年7月1日 ©2024

本書掲載の内容を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

※この冊子は再生紙を使用しています。